

スコアシート 実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質					2.8
Q1 室内環境			0.40	-	3.1
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.50	3.0	0.50
1.2 遮音	-	3.0	0.50	3.0	0.50
1.2.1 開口部遮音性能	-	3.0	1.00	3.0	0.30
1.2.2 界壁遮音性能	-	-	-	3.0	0.30
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20
1.3 吸音	-	-	-	-	-
2 温熱環境		1.6	0.35	3.1	1.00
2.1 室温制御		2.2	0.50	3.3	0.50
2.1.1 室温	-	3.0	0.63	3.0	0.63
2.1.2 外皮性能	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。	1.0	0.38	4.0	0.38
2.1.3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御	-	1.0	0.20	3.0	0.20
2.3 空調方式	-	1.0	0.30	3.0	0.30
3 光・視環境		2.7	0.25	3.6	1.00
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.0	0.30
3.1.1 昼光率	2.5%≦[昼光率](共用部分)	5.0	0.60	5.0	0.50
3.1.2 方位別開口	-	-	-	3.0	0.30
3.1.3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	0.20
3.2 グレア対策		1.0	0.30	4.0	0.30
3.2.1 昼光制御	カーテンと庇にて昼光制御している。	1.0	1.00	4.0	1.00
3.3 照度	-	3.0	0.15	3.0	0.15
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	3.0	0.25
4 空気質環境		3.6	0.25	3.5	1.00
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63
4.1.1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00
4.2 換気		3.0	0.40	2.6	0.38
4.2.1 換気量	-	3.0	0.50	3.0	0.33
4.2.2 自然換気性能	-	-	-	2.0	0.33
4.2.3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.50	3.0	0.33
4.3 運用管理		-	-	-	-
4.3.1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-
4.3.2 喫煙の制御	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能		-	0.30	-	2.8
1 機能性		2.4	0.40	2.6	1.00
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60
1.1.1 広さ・収納性	-	-	-	-	-
1.1.2 高度情報通信設備対応	-	-	-	3.0	1.00
1.1.3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40
1.2.1 広さ感・景観	-	-	-	3.0	0.50
1.2.2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-
1.2.3 内装計画	-	1.0	1.00	1.0	0.50
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-
2.1.2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-
2.2.1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当。	5.0	0.20	-	-
2.2.2 外壁仕上り材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-
2.2.3 主要内装仕上り材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20	-	-
2.4.3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-
2.4.4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-	2.0	0.20	-	-

3	対応性・更新性			3.0	0.30	3.4	1.00	3.2
	3.1 空間のゆとり			-	-	3.8	0.50	
	1	階高のゆとり	階高:3.0m以上。	-	-	5.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	-	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		-	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
	1 生物環境の保全と創出		-	2.0	0.30	-	-	2.0
	2 まちなみ・景観への配慮		-	3.0	0.40	-	-	3.0
	3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		-	3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用		-	2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.86、LED 照明設備を導入。	3.4	0.50	-	-	3.4
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.4	1.00	-	-	
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	水栓の節水機能に加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
	2.1	材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率79%。	3.8	0.33	-	-	3.8
2	地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1	大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」と「広告物照明の扱い」の全ての配慮事項を満たしている。	5.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	2.0	2.0	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		-	2.0	1.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	12.0		1.0	-	1.0	3.0	3.0	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値 4.2	外皮UA値 0.9	η AC 1.6	η AH 0.5	
星光率	5.8%				
自然換気有効開口面積率					

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-
コンセント容量	-	VA/m ²							
天井高	-	m							
リフレッシュスペース	-	レストスペース	-						
想定耐用年数	75 年								
想定必要間隔	-	年							
想定必要間隔	-	年							
想定必要間隔	-	年							
階高	3.06 m								
壁長さ比率	-								
床荷重	-	N/m ²							

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	45%	建物緑化指数	0%				
空地率	69%	水平投影面積率	15%	地表面対策面積率	39%	舗装面積率	68%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	対象外	断熱性能等級			等級4 相当		
自然エネルギー直接利用量	-	MJ/年㎡			採光を満たす教室数	-	採光を満たす住戸数
					通風を満たす教室数	-	通風を満たす住戸数
					太陽光	-	太陽熱等
							蓄電池
BEI/BEI _m	再エネ有	-	無	-	オフサイト再エネ有	-	-
一次エネルギー削減率	再エネ有	14%	無	14%		-	-

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	-				
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-		
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3		
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-		

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	70% 隣棟間隔指標Rw 2.34						
地表面対策面積率	63.0%		屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%	
見付面積Sb	729㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	69.7 m	基準高さHb	14.825 m		
緑地	690㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡
				高反射対策面			